

防コミの歩き方

BOSAI
KOBEMIRAI

神戸市内初! 防コミ間連携津波避難訓練を実施

●急がれる津波対策

昨年の東日本大震災の発生を受け、兵庫県は暫定的に津波高さを現行の2倍とした津波被害警戒区域図を発表しました。神戸市ではこの津波被害警戒区域図に基づいて関係する地域での対策を進めており、東灘区の魚崎防コミもそのひとつです。今回は対策の一環として、実際に東海・東南海・南海地震が発生し、避難勧告が発令されたとの想定で津波避難訓練が実施されました。

●神戸市内初! 防コミ間連携津波避難訓練

今回の訓練の大きな特徴のひとつは2つの防コミが連携して津波避難訓練を実施したことで、これは神戸市内でも初めての試みです。魚崎防コミの山側に位置する本山第二防コミは津波被害警戒区域には含まれていません。したがって、津波発生のおそれがあるときには、魚崎防コミの住民が本山第二防コミの地域内に多く避難してくることとなります。そこで、魚崎防コミの津波避難訓練にあわせて本山第二防コミの避難者受け入れ訓練も実施することとなりました。

●国道2号線より山側へ逃げろ!!

6月24日10時10分、地震が発生したとの

想定で訓練が始まりました。魚崎地区の3箇所の防災行政無線の屋外スピーカーが鳴動し、避難を呼びかけます。住民は非常持出袋を携行し、目標である国道2号線の山側まで、事前に想定した経路で避難しました。

●おもてなし防コミ

今回の訓練における最終避難場所として設定した住吉川東緑地(通称「防災ひろば」)近辺では、本山第二防コミが避難者の誘導などをおこないました。避難してきた人は応急給水設備や防災資機材庫、非常時に設置する簡易トイレ、土嚢^{どろ}を作るための土が積まれた築山など、防災ひろばの機能について説明を受けました。

●防コミ間の交流

訓練後には、魚崎防コミと本山第二防コミが協力して準備した炊き出しをみんなで試食しました。今回の訓練には行政も含めて500人あまりが参加し、地域・団体を越えて交流を深めることができました。このような“顔の見える関係”が、地震や津波だけでなく、さまざまな災害が発生した際の助け合いに役立つものと考えています。

(東灘消防署 池原彩乃)

